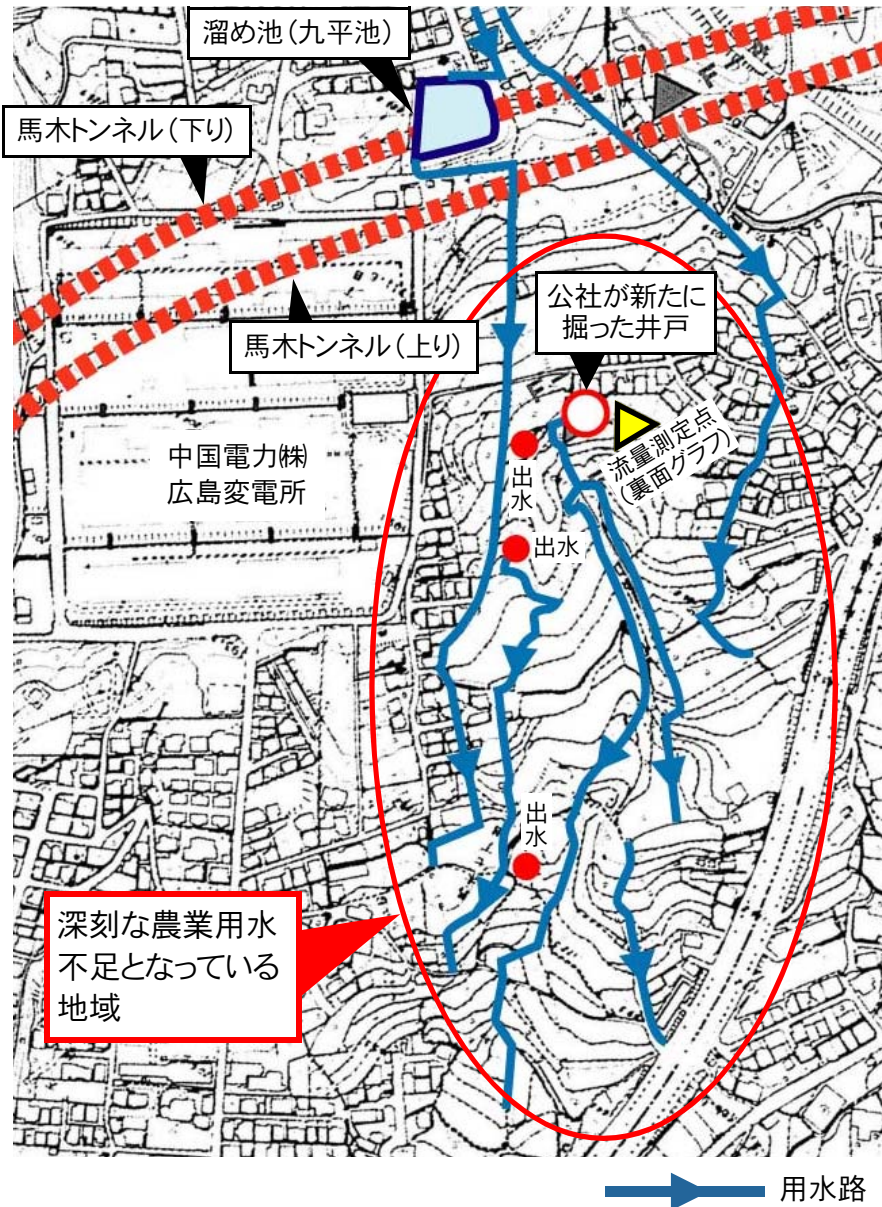


地盤沈下につづき

今度は『水枯れ』

広島高速1号線・馬木トンネル工事

田植えシーズンをむかえ深刻な水不足



現在建設中の広島高速1号線・馬木トンネル(延長約1km)は、掘削による地下水の低下で、トンネル真上にある住宅団地で当初予測を最大で10倍も上回る地盤沈下が発生。団地横には変電所もあり、大きな問題となっています。そして、田植えシーズンをむかえた今、「水枯れ」という新たな問題が起きています。

この地域は、大きな谷筋に土砂等が流れ込んできた傾斜地で、自然の地下水の流れをうまく利用して棚田で稲作がおこなわれてきました。しかし、トンネル掘削が始まって以降、地下水や、田んぼのいたるところで湧き出していた水(地元では『出水(でみ)』と呼ぶ)が極端に減少し、田植えの準備もままならない事態となっています。地元では、トンネル建設計画が持ち上がった当初から、「軟弱な地盤だから何が起るかわからない」「井戸水が枯れる」など、不安の声が上がっていました。トンネル工事を進めている広島高速道路公社は、新たな井戸を掘ったり、道路のそばにある田んぼにはトンネル工事が出た地下水を給水車で1日に何往復も運んだりしていますが、水不足の解消には程遠い状況です。

日本共産党市議団が現地調査 住民とともに高速道路公社に要望



公社との交渉の場で発言する村上あつ子議員(写真中央)。その前方は皆川九し議員=23日、現地の工事事務所

日本共産党市議団は5月14日、地元住民の案内で現地の水路や「出水(湧水)」を調査。23日には住民とともに広島高速道路公社と交渉しました。

村上あつ子議員は、「個人で井戸を掘って対応している人もいれば、公社が給水車で田んぼに給水している人、上流の田んぼの余り水が流れてくるのを待つしかない人もいます。水不足の状況はまちまちだが、いずれは個人の努力の限界を超えてしまう。そうなる前に個々の状況に応じた対策をしてほしい」と公社に求めました。

住民からは、当面の水不足を解消するため
の応急措置と、今後この地域で安心して稲作ができるよう、トンネルから湧出する地下水の利用も含め、恒常的で安定した水源を確保してほしいとの要望がだされました。

公社は、「水の確保はする」とし、個々の要望に応えられるよう最大限努力したい」と答えました。トンネルから出る湧水の利用については、具体的に検討していかなければなりません。

東区馬木トンネル付近の地下水不足

原因はあきらかにトンネル工事にある

—日本地質学会会員 越智秀二氏の見解

この地域では、従来から地元のため池(九平池)や、出水(でみ)と呼ばれる湧き水を利用して稲作をおこなってきました。

しかし、馬木トンネルの掘削が始まって以降、地下水や湧き水が極端に減少し、地下20mの井戸水が枯れる事態も起こっています。

この地下水不足の原因が、トンネル工事にあることは明白です。

地元の要望を受けて広島高速道路公社は、深さ180mの新たな井戸を掘り、くみ上げた地下水を用水路に放水、今年5月1日から正式稼働していますが、田畑の水不足を解消するまでには至っていません。

5月6日に、この地域の水利問題の調査をおこないましたが、もし公社の掘った井戸からの放流

がなければ、用水路にはほとんど水が流れないという実態でした。

この井戸の維持管理は、将来、地元で負担せざるを得ず、この井戸が将来にわたって安定的な水源となる保障は全くありません。

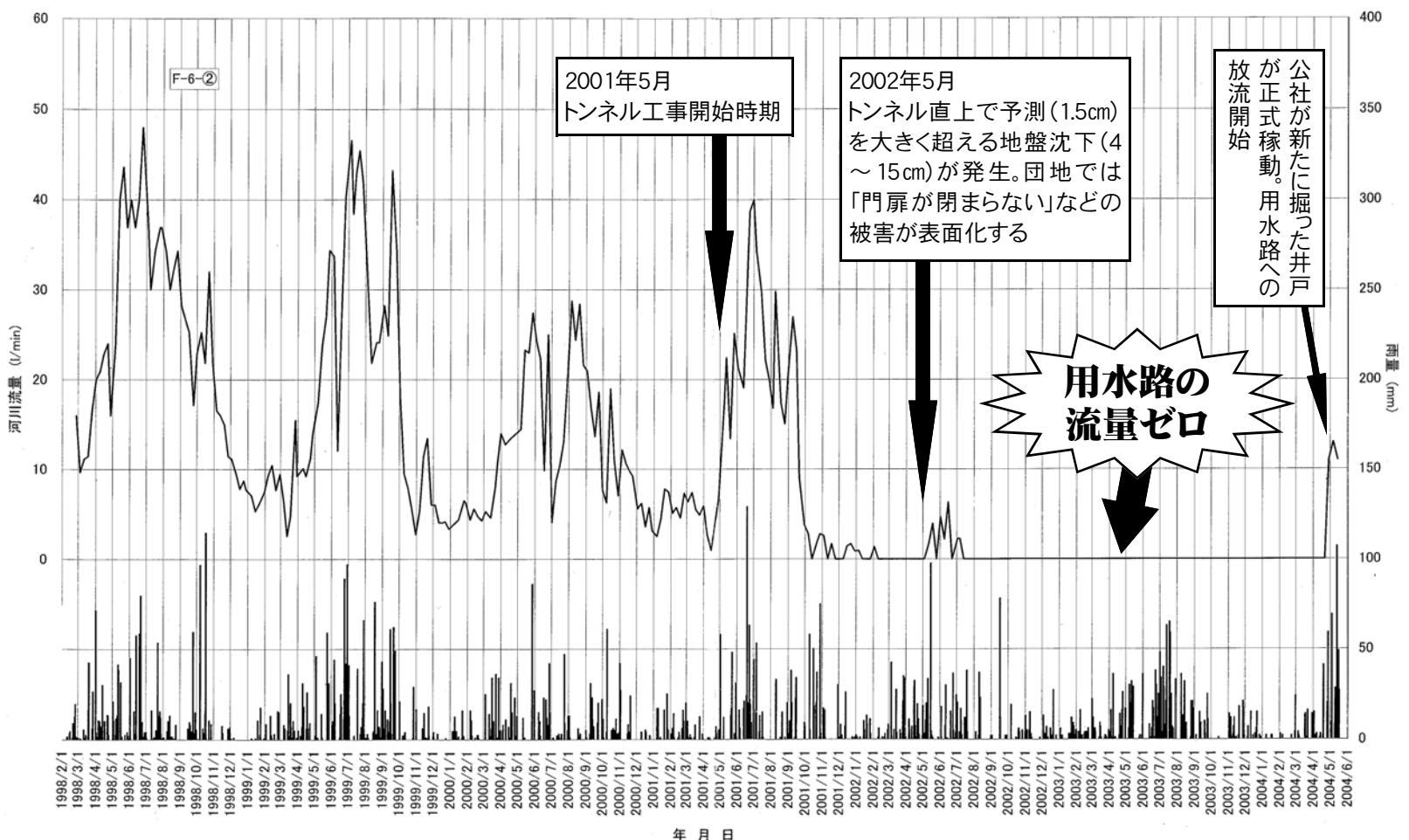
この地域の上流で、ため池(九平池)の水を引き込んで水田耕作すれば、その余った水が下流に流れますが、このようにして得られる農業用水は、今後も安定して保障されるというものではありません。

また、水利権にからんで、今後様々な問題が生じてくる可能性もあります。

この地域で今後も安心して水田耕作を続けるためにも、恒常的で安定的な水源確保は急務です。

用水路の流量と雨量のグラフ

(流量測定点はオモテ面の地図内の三角ポイント)



図一 河川流量観測結果 (F-6-②)